

## 図書館協議会会議録

と き 平成 24 年 8 月 23 日 (木)  
午前 10 時 ~ 午前 11 時 30 分  
ところ 名張市立図書館 2 階 視聴覚室

出席者：協議会委員 内田、澤田、平見、山中、高倉、中川  
(欠席者) 岩見、山岡

教育委員 松尾  
事務局 木村、宮前

- 1 あいさつ  
松尾教育委員
- 2 報告事項  
(1) 平成 23 年度利用状況について  
事務局より資料に基づき報告。

### 委員からの意見

ミニ特集展示の企画はどこがしているか。  
図書館業務委託の受託事業者のスタッフが企画している。

子どもたちは、親と一緒に図書館に来るのを楽しみにしている。どの地域の人が利用しているか、どの年代の人が利用しているか、という数字がわかったほうが良い。

地区別利用状況、年齢別利用状況のわかる統計資料を後日送付する。

ライトノベルの貸出が多いということであったが、それ以外の分野ではどうか。

小説を除くと、実用書が多い。

創造力を養う観点から、おはなし会やブックトークをするなどして、絵本の紹介に努めていったらよい。

絵本の貸出数は、全体の 13%程度ある。

学校で読み聞かせのボランティアをしている。図書館の本を利用する

ことが多いが、子どもたちはその本を読みたがる傾向がある。

学校への団体貸出のシステムはあるか。

貸出期間 1 ヶ月、最大 100 冊で行っている。担当の先生が内容を連絡してきて、それに沿った図書を図書館側で選ぶ。

津市津図書館には団体貸出用の部屋がある。中学校区に一人ずつ学校司書が配置されている。学校司書と担当の先生が図書を選ぶ。

津市の学校図書館へのサービス展開は、県内では他の市町に比べるとレベルが高い。学校図書館支援センターが図書館の中にある。中学校区に1人ずつ学校司書が配置されている。名張市はまだまだであるが、津市のモデルを踏まえながらサービス展開を考えていくと良い。

学校図書館支援を業務委託の仕様書に入れた。現状のサービス展開はどうか？

小学校は1校につき年2回、中学校は1校につき年1回の訪問。おはなし会、ブックトーク、図書整理の支援などを行っている。

現状では、学校図書館へのサービス展開は難しい。本格的な実施のためにはどうすればいいかを考えていく必要がある。

学校図書館の活性化には、学校図書館支援にかかわるボランティアのコーディネート、学校側の受け入れ体制、学校司書の存在が重要となる。

学校現場には、図書館に限らずいろいろなボランティアの方が入ってくださり助かっている。図書館に関しては、学校司書が配置されているとなお良い。

図書館サービスを評価する指標はいい数字が出ている。名張は県下でもトップクラスである。特に開架図書回転率は理想的な数字である。選書がうまくいっていることの証拠と考える。

館内OPACとWeb-OPACからの予約数が、全予約数の半数を超えているとのことだが、事務局も懸念しているように、両面性があ

る。便利な方法だから利用数が増えるが、一方で、場としての図書館をどう使ってもらうかも大事になる。入館者数が減ってくるとその問題も大きくなるが、現状はそうでもない。

(2) 名張市子ども読書活動推進計画策定の進捗状況について

昨年の8月に検討委員会を設置。以来、8回の会議を開催した。あと少しで素案ができ上がる。総花的な計画では実現ができないので要点を絞って検討している。計画の実施期間を決めたこと、学校図書館の問題、とくに本と子どものつなぎ手となる学校司書の重要性に触れていること、市立図書館における児童サービスの展開についてのことが計画の大きな柱となっている。

(3) 図書館情報システム契約更新の進め方について

委員からの意見

新システムで、新しいサービスを考えているか

特に目新しい機能は考えていない。メーカーのパッケージソフトを使用する予定である。

学校図書館とのネットワーク化は考えているか。

現在のところ考えていない。

学校図書館とネットワークで結ぶことは、システムだけでなく本の物流も必要となる。ネットワーク化するとして、まずは調査・研究が必要。

3 その他

来年度、協議会委員の改選次期を迎える。

(以上)